悠紀だより

甲府市立石田小学校
令和３年３月２５日
Vol.13
校長　雨宮秀樹

本日，TV放送による修了式が行われました。楽しいことや嬉しいことばかりではなく，悲しいことや辛いことも，いろいろなことがあったと思います。特に今年度は，コロナ禍の中，いつも通りの教育活動ができず，これまで当たり前だと思っていたことの有難みを痛感した1年間でした。学年総会でもお話しさせていただきましたが，子どもたちも私たちも，「学ぶことの大切さ」「人と繋がることの大切さ」「安全・安心，健康的な生活の大切さ」…等，たくさんの大切さを感じてきました。そして奇しくも，これらは本校の学校教育目標「自ら学び　認め合い支えあう　健やかな子」に重なります。大変な年でしたが，大人も子供もいろいろな課題解決に向けて，自分事として考えアイデアを出し合い，様々な協働ができたようにも思います。なかなか先の見通せない一年間でしたが，常に学校教育へご理解・ご協力をいただき，誠にありがとうございました。

はなむけの言葉

桜の花も咲き始め，春の息吹が感じられる季節になりました。希望あふれる今日の佳き日，石田小学校第四十四期生として大空へ羽ばたこうとしている55名の卒業生の皆さん，卒業おめでとうございます。

また，保護者の皆様。本日はお子様の御卒業，誠におめでとうございます。小学校入学から６年間，お子様と共に歩んでこられた日々を感慨深く思い出されていることでしょう。心よりお祝い申し上げます。

さて，一年前の３月，感染拡大防止の為の臨時休校となり，新年度になっても学校の再開はなかなか叶いませんでした。やっと子どもたちが学校へ戻ってきたのは，５月の終わり。給食が始まったのは６月になってからでした。学校の授業もソーシャルディスタンス，誰も経験したことのない状況の中，新たな生活様式に基づいた学校づくり，正に手探りでのスタートでした。

そのような中，７月。図工室前の児童会の掲示には，七色の虹をバックに「溢れるオレンジスマイル心を一つに石田の絆」というスローガンが掲げられました。暗く気持ちが沈んでしまいがちな時，「虹のように明るくきれいなスマイルが石田小に溢れて欲しい」という子どもたちの願いが表れていました。児童会行事・縦割り活動・運動会も修学旅行も，例年と同じようにはできません。それでも最高学年である卒業生の皆さんは，「どうしたらできるだろう？」「どこまでだったらできるだろう？」と，知恵を絞り工夫を凝らしながら進めてきてくれました。アイコンタクトとスマイルによるあいさつ運動，2教室を使い難易度を付けたゆうき祭り，運動会では応援の仕方も工夫してくれました。そして，鎌倉・静岡への修学旅行。一泊二日の中身の濃い時間の中で，友情を深めることもできました。コロナ禍の中ではありましたが，正に，力を合わせリーダーシップを発揮し，素晴らしいお手本を示してくれた卒業生。石田小学校の歴史に新たな輝かしい１ページを刻んでくれました。

本日をもって小学校生活に別れを告げ，中学校へ巣立つ卒業生の皆さんに，山梨県出身でノーベル賞を受賞した大村智博士が 引用する「至誠　天に通ず」という言葉を贈ります。これは「何事にも一生懸命取り組めば，必ず良い結果になる」という意味です。夢や希望を叶えるためには，困難を乗り越えていく努力が必要です。「艱難汝を玉にす」困難を乗り越えていく時こそ，人は磨かれ成長します。皆さんには，前途洋々の未来が待っています。石田小学校の卒業生としての自信と誇りを胸に，自らの力を更に伸ばし夢の実現に向かって一歩一歩進んでください。

結びになりましたが，保護者の皆様方には，本校の教育振興に対し深い御理解・御支援を賜り心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。卒業生の大いなる飛躍を祝福し，「はなむけの言葉」といたします。

令和３年３月２３日
甲府市立 石田小学校　校長　雨宮秀樹

3月23日(火)穏やかな春の一日，第44回卒業証書授与式が行われました。参加人数の制限や時間の短縮，内容の吟味など，感染防止対策を講じた上での実施となりました。

中学校という新たな環境の中，55名の卒業生がさらに輝いてくれることを信じています。